



ふれあい Week が開催されました

毎年11月に定期開催している情報センターふれあい Week を11月8日(水)～13日(月)の期間に開催。また、今回は情報センターが平成19年11月に開設(業務スタート)されてから10年目にあたり、記念行事も同時開催となりました。

あいにく、11月は他のイベントや地域での催しなどと重なることが多く、来場者数が心配されましたが、見事に期待を裏切られる大盛況となりました。

期間中は、情報センター内で関係団体のパネルをはじめ、聴覚障害者による作品(写真、手芸、木工など)、福祉機器(振動式目覚まし時計、フラッシュ式お知らせランプ等)の展示を行いました。

特に、毎回好評を得ている福祉機器の展示は、日頃紹介する際にパンフレットのみの案内となり、目覚まし時計などは、実際の大きさや振動・光の強さなど、うまく伝えられない部分を実際に手に触れて体験できる唯一の機会となっており、来所された方のほとんどが感心されています。



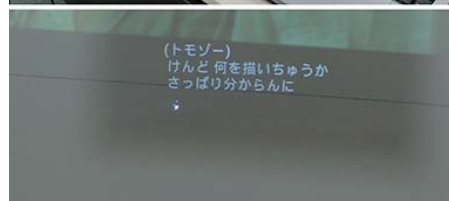
ふれあい Week 開始前に来所された利用者さんも、改めて実物展示を見に来ていただき、どの製品が自分に適しているのかとも参考になったようでした。

11日(土)は、滋賀県にある「びわこみみの里」から講師をお招きし、「聴導犬のデモンストレーション」を実演していただき、聴導犬の役割や養成など、様々な面からのお話をさせていただきました。(詳細については最終ページに記載しています)

翌12日(日)には情報センター開設10周年記念として、手話のTV番組等でおなじみの早瀬夫妻によるトークショー第2部が、ボランティア室で行われましたが、準備していた椅子はすべて満席となってしまい立ち見の方がでる盛況ぶり。

ボランティア室に入れなかった方々のために、急遽交流スペースの液晶テレビに録画カメラの映像を映し出して対応する事態となりました。

期間中にはスマートグラスによる字幕表示体験(デモ)も行っており、スマートグラス越しに字幕が表示される未来的な感覚を体験



していただきました。

今回は字幕表示に対応する映像がデモ版で4分ほどの短いものだったのですが、今後映画館で上映される映画がこの方式(UDcast: ユーディーキャスト)を採用したものが増えてくると、現状、日時が限定されている字幕付き映画が、今後は上映期間中ならいつでも、どの時間でも字幕付きで見ることができるようになるわけです。

機器(スマートグラス)の普及には、まだ時間がかかりそうですが着実に技術が進歩している事を実感していただけたかと思います。

(左上: スマートグラス 左: スマートグラス越しの字幕)

電話リレーサービスと遠隔手話通訳サービス

最近、自治体などでサービス導入がされている、電話リレーサービスと遠隔手話通訳サービスの違いについて、大まかに説明します。

電話リレーサービスとは？

聴覚障害者



手話や文字チャットで、電話して欲しい要件を通訳者に伝える。

※メールやファクスに比べ即時性や双方向性に優れている
通訳者



相手先



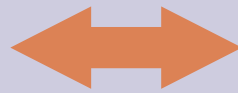
相手先に対し通訳の内容を電話で伝えます。

遠隔手話通訳サービスとは？

聴覚障害者



病院などの窓口でタブレット等を利用し、遠隔地にいる手話通訳者を通して、目の前の健聴者とコミュニケーションがとれます。



現状の手話通訳と違い、手話通訳者が現地に行く必要がない。

一見すると聴覚障害者にとってどちらも大変便利なサービスであることは、おわかりいただけるかと思えます。しかしながら電話リレーサービスにおいては接続先の会社などの理解がなく、「電話リレーサービス」と名乗ると何かのセールスの電話と誤解されたり、通訳者を介する事で内部情報が漏れてしまうのでは？とサービス利用を懸念されることもあるようです。

既に幾つかの箇所で始まっているサービスではありますが、まだまだ課題が残っているのは事実です。健聴者のように24時間いつでもサービスを利用できる訳ではなく、通訳サービスを行っている事業所の営業時間外は利用できない。また110番などの緊急通報には未対応などがあげられます。

アイ・ドラゴン4が設置されました

公益社団法人24時間テレビチャリティー委員会より、平成29年6月3日福岡で開催された第65回全国ろうあ者大会において機器の贈呈式が行われ、34都道府県41団体に贈呈されました。

アイ・ドラゴン4は、今までの衛星放送を利用した視聴方法から、インターネット回線（光回線）を利用した視聴方式に変わります。

またこれまでに放送された番組も、自分の好きな時間に好きなだけ視聴することができるアーカイブ機能も備わっており、リアルタイム手話放送に関しては、手話画面の大きさや位置、字幕に関する文字サイズや文字色も自在に変更することができます。

また、現在アイ・ドラゴン3を利用されている方は、2018年3月末に放送を見ることができなくなりますので、継続して視聴したい方はアイ・ドラゴン4への切り替えをお勧めいたします。



こんなところ行ってみました

岐阜県可児郡御嵩町西洞（さいと）にある耳神社。この名前でピンと来た人は、県聴協が毎月発行している「ろうあ岐阜」のかなりの熟読者ですね。

この耳神社は、ろうあ岐阜に掲載されている「むそたろうの一寸コラム」にも取り上げられており、情報センターでむそたろう氏が手話で解説されているDVDも作成しました。（どなたでも視聴可能です）

そこで、話には聞いていたこの耳神社に実際に行ってみました。インターネットで検索すると、「少し山奥でさみしい感じの神社」との口コミなどがあり少々不安でした



たが、車で1時間弱で現地に到着することができました。

インターネットの口コミにあったように、確かにさみしい感じがありますが、近くの道路が東海自然遊歩道になっており、リュックを背負った高齢の方が数名歩いていました。

神社には言い伝えの通り、本物の錐（きり）や、竹串で錐を模したものが幾つも供えられており、戦前には遠く名古屋方面からお参りに来る人もいたと記されていました。

言い伝えの詳細は、「じいさまから聞いた話」¥800（税込み）という本の中に「耳神さま」として記されており、この本は「中山道みたけ館」で購入することができます。（郵送対応可：要連絡）

中山道みたけ館は、御嵩町の歴史を知ることのできる展示施設で、

1階は図書館、2階が展示室となっており、訪問した時には「天台宗大寺山願興寺所蔵 重要文化財 十二神将展 ～本尊薬師如来の眷属～」が開催されていました。このほかにも常設展示もありますので、立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

近くには道の駅「可児（かに）って」もあり、地元の野菜などの販売や、名物の「里芋コロッケ」なども売られています。耳神社を含めて御嵩町をちょっとだけ探索し

てみました。

※中山道みたけ館（可児郡御嵩町御嵩 1389-1）TEL(0574)-67-7500 FAX(0574)-68-0005



岐響祭に出展

2014年からブース出展させていただいている岐阜県立岐阜聾学校の文化祭「岐響祭」に今年もブース出展させていただきました。

今回は、情報センターのふれあいWeekと日程が重なり11月11日(土)のみの出展となりましたが、情報センターのPR動画や、字幕付きビデオ(DVD)の見本視聴、機関誌やパンフレットの配布、生徒さんとのふれあいをしながら、短い時間ではありましたが延べ100名を超える来場者がありました。

準備等、ご協力戴きました先生方に改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

COMUOON (コミューン) のデモ機展示中

ふれあいWeek期間中に展示しておりました、ユニバーサル・サウンド・デザイン社が開発・販売を行っているCOMUOON(コミューン)のデモ機展示を、延長しております。

この機器はマイクから入力された音の雑音などを取り除き、クリアな音へ変換してくれ、特に軽度～中程度の難聴者の聴こえを助ける製品となっています。

展示期間はおよそ1ヶ月を予定しておりますが、諸事情により短くなる場合がございます。予めご了承下さい。試聴してみたい方は情報センター職員に声をかけて下さい。



講座開催中



聴導犬がやってくるよ!!

ふれあい Week 中のイベントとして企画しました。内容は聴導犬の育成や費用、盲導犬などの介助犬との違いなどをわかりやすく講演していただき、実際にどういう働きをしてくれるのかデモンストレーションもありました。

単に、聴導犬育成といっても育て上げるまでには、様々な費用がかかります。

その資金繰りに苦労されているお話がありました。当初の参加者は18名でしたが、最終的に32名とほぼ満席状態になりました。

盲導犬はハーネスを持った時点から仕事をしている事を認識するが、聴導犬は24時間仕事をしている状態。(いつどこでどんな音がするかわからない)

デモンストレーションは、後方からの自転車のベルの音や、目覚まし時計、タイマーの音など、生活に密着した音が多く、音が鳴ったら当事者の足元で立って知らせてくれます。

通常、犬には声で合図(おすわり、待てなど)しますが、聴導犬には指で合図をし、その反応も素晴らしかったです。盲導犬などは大型犬が主流ですが、聴導犬に関しては犬種を問わず、みみの里では、トイプードルをメインで育成しているとのこと。まず見た目で癒されることは間違いありません。

びわこみみの里では、見学も受付けているそうなので、ご利用されてみてはいかがでしょうか。



ポッキー

がま口サイフを作りましょう



好評の手作りシリーズ!今回はがま口サイフでした。

金具部分は同じ部品ですが、選ぶ生地柄や大きさを和風に仕上がったり、洋風に仕上がったり。大きさも千差万別。

講座開始と同時に、ボランティア室が静寂に包まれるのは、手作り講座にはつきものの光景。2時間があっという間に過ぎてしまい、皆さん満足された様子で作品を持ち帰られていました。

ちょっと小耳3

人間の骨の中で一番大きい骨は大腿骨(だいたいこつ)で、長さは約40cm。一方、一番小さい骨はというと、耳の中にある耳小骨(じしよこつ)。鼓膜からの音を内耳に伝える骨で、つち骨(約9mm)、きぬた骨(約7mm)、あぶみ骨(約3mm)の3つの骨が連なっています。

名前は骨の形から付けられ、つちはハンマー、きぬたは叩いて柔らかくする道具、あぶみは馬に乗る際に足を乗せる馬具。

こんな小さな骨でも人間には重要なんですね。



アンケート実施中です

情報センターでは、毎年4回発行している「岐阜県聴覚障害者情報センターだより」についてアンケートを実施しております。FAXまたはインターネットから回答が可能です。

FAXの方は同封の用紙に、インターネットの方は下記のアドレス、スマホからはQRコードを利用していただくと簡単に行えます。皆さんの回答をお待ちしております。

<https://goo.gl/G5mGz3>



LINE



facebook



ブログ

左のQRコードを利用すると、情報センターのブログ、LINE、Facebookに簡単にアクセスできます。ぜひご利用下さい。

